

世界ジオパーク認定後に変化した室戸ジオパークの諸問題 Issues Facing Muroto Geopark after Gaining Global Status

殿谷 梓^{1*}, 岡田哲也², 和田庫治²

TONOTANI, Azusa^{1*}, Tetsuya Okada², Koji Wada²

¹ 室戸ジオパーク推進協議会, ² 室戸市ジオパーク推進課

¹Muroto Geopark Promotion Committee, ²Muroto Geopark Division, Muroto City Government

1. はじめに

「海と陸が出会い、新しい大地が誕生する最前線」をコンセプトとする室戸ジオパークは、室戸市全域を範囲とし、タービダイトをはじめとする地質遺産や地形を始め、生態系や室戸の自然と共存してきた人々の歴史・文化・産業を学び、体験できる場所である。

室戸ジオパークは、2010年に3度目の世界ジオパーク申請を行い、2011年9月18日の欧州ジオパークネットワーク会議にて、世界ジオパークの認定を受けた。世界ジオパークに認定されたことにより、マスコミ取材や講演、出前授業、研修の件数、観光客数などが増加し、現在も室戸ジオパークの注目度は、上がりつつある。

しかし、世界ジオパーク認定を受け、注目度が上がったことにより、室戸ジオパークの抱える問題点がより浮き彫りになってきた。

今回は、世界認定後の室戸ジオパークで起こっている事象や、浮き彫りになった問題点、今後の対応などについて報告する。

2. 世界ジオパーク認定後の変化

世界認定直後、マスコミ取材・講演・出前授業・研修などのPR活動により、室戸ジオパークの認知度は上昇した。それにとともに、ガイド組織が案内した観光客数は飛躍的に上がった。例えば、室戸岬のガイド実績は対前年比(9月・12月)で472%である。そして、新しいガイド組織の立ち上げや各ジオサイト内の新しい見所の開拓などに向けた地域の取り組みも活発になってきた。

また、世界認定後に行った記念イベントでは、約340名がイベントに参加し、イベント後半で行ったジオツアーには38名の方々が室戸の魅力を発見・再発見した。このように世界認定後における地域住民の活動は一歩ずつではあるが、前進しているように思える。

3. 世界ジオパーク認定後に生じた問題点

世界認定により、室戸ジオパークの認知度が上昇し、多くの方々が室戸ジオパークに訪れるようになった。しかし、飛躍的に上がったガイド実績は、少人数で取り組むガイド体制を逼迫している。そして、周遊するコースが未熟であるために、ガイドがあるジオサイトや整備されたジオサイトへビジターが滞在する傾向が強まった。そのため、ビジターの中には「室戸ジオパークは岩石や地層を観る所」という、固定したイメージを持つビジターが今も多い。

また、注目度が上がったことで、環境保全についても問題が生じている。室戸ジオパークの「山」のサイトである段ノ谷山サイトは天然杉群が見所の一つであるが、認知度が上がったために、入山者数が増加している。そのことが、天然杉や森林の環境保全に負担をかける可能性が高まってきている。

4. 今後の取り組み

このように、室戸ジオパークが世界認定されたことで、ビジターが急増しているが、その反面、前記のとおり、新たな問題が山積している状態である。

上記問題点に対して取り組みを始めている内容は、新しいガイド育成のためのガイド養成講座の開始、観光客が周遊することを促すためのツール作り、段ノ谷山サイト環境保全の対策の3点である。

ガイド養成講座は、2011年12月17日から2012年2月5日まで開講し、38名の方々に受講いただいた。ガイド養成講座は修了したが、現在スキルアップ研修などの制度を設け、さらなるガイド育成のためのプログラムを行っている。また、観光客の各サイト周遊を促すためのツールとして、スタンプラリーやミウラ折りを作成している。そして、環境保全に関しては、行政・地元活動団体ら関係団体を中心として、入山・監理に関する規定を定めていく予定である。

5. さいごに

問題点について取り組み始めている事柄がある一方で、まだ改善できてない事項もある。室戸ジオパークの各サイトを周遊できるようなコース作りがまだ十分でない点である。その理由は、ガイドが少人数であることや周遊するためのツールが少ないことだけに起因しているのではない。

コース作りの重要なポイントの一つとして、現在あるジオサイト内の新しい見所(ジオポイント)を開拓し、室戸ジ

Japan Geoscience Union Meeting 2012

(May 20-25 2012 at Makuhari, Chiba, Japan)

©2012. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.



MIS32-08

会場:202

時間:5月21日 11:00-11:15

オパークのストーリーに組み込んでいくことである。そのためには、室戸ジオパーク推進協議会だけでなく、ジオパーク活動に携わる地元住民や関係団体の連携、情報交換などの協力体制を深めていくことが、今以上に必要となる。

そして、このような各ジオパークが抱えている諸問題については、各ジオパークが単独で問題を抱えるのみでなく、互いに情報共有し、相談しあえるような場が必要である。

つまり、今後の室戸ジオパークや他のジオパークが継続・発展していくためには、みんなで築き上げるジオパークへとより変化していく必要がある。

キーワード: 室戸ジオパーク, 世界ジオパーク認定後

Keywords: Muroto Geopark, after gaining global status